名古屋東山周辺の昆虫相　Ⅳ. その他

(3) 直翅目，膜翅目，双翅目等と追補3

内　藤　通　孝*

Insect Fauna around Higashiyama in Nagoya IV. Others
(3) Orthoptera, Hymenoptera, Diptera etc. & Addendum 3

Michitaka NAITO

はじめに

今回は「名古屋東山周辺の昆虫相」連載の最終回である。ここでは，今まで取り上げなかった直翅類，ハエ目（双翅目），ハチ目（膜翅目）などをまとめるとともに，以前に収録した甲虫目（鞘翅目），カメムシ目（半翅目），チョウ目（鱗翅目）で，その後に明らかになったものを追補する。直翅類，ハエ目，ハチ目などについては，とくに注目して観察・採集してきたわけではないので，網羅的な記録とはなっていないが，これらのまとまった報告は少ないので，ここに記録を留めておく。

観察記録

分類・学名・和名，その他の記載事項などは，文献1〜13を参考にした。幼虫の同定には，文献14〜19を参照した。生態写真の撮影および標本の採集・保管については，特に記載のないものは筆者による。表記は簡略にするため，以下の原則に依った。

例数，性（雌雄を鑑別した場合のみ♀，♂の記号を入れた），採集（観察）年月日，観察場所（名古屋市を省略）の順に記した。観察年月日は8桁（年月のみの場合は6桁）で示した。

例：「1 ex　19970608　昭和区八事本町興正寺」であれば，1例（雌雄区別せず）で，1997年6月8日に名古屋市昭和区八事本町の興正寺境内で採集したことを示している。同じ観察地が続く場合には，「同地」とした。

成虫の大きさは，標本で実測した場合には，その値を示した。実測値が得られないものについては，上記の文献を参考に，種類によって体長，翅端までの体長，前翅長などで示した。幼虫の大きさは省略した。名古屋市・愛知県の分布については『愛知県の昆虫

* 生活科学部　管理栄養学科

(上)[20]・(下)[21]』を参考にした。北海道・本州・四国・九州に分布するものは「日本」とし，島嶼は省略した。原則として外国での分布は省略した。文献20，21に名古屋市からの記録がない種の学名には*，愛知県からの記録がない種には**を付したが，同文献で調査が不十分な系統（ナナフシ目，アミメカゲロウ目，ハチ目，ハエ目）については，愛知県や名古屋市での生息が確認されているか否かが判断できないので，標示しなかった。バッタ目には「鳴く虫」が多いが，鳴き声を文字で表現することには限界があるので，鳴き声に関する記載は省略した。鳴く（発音する）ことが知られている種については#で示したので，文献6，7，22，23に付属のCD-ROMの他，インターネットなどで確認することができる。

直翅類 Orthopteroid

直翅類（多新翅類 Polyneoptera）には，狭義の直翅目（バッタ目）の他，ハサミムシ目，ナナフシ目，カマキリ目などが含まれる。

1　ハサミムシ目 Order Dermaptera

ハサミムシの名は，尾端にハサミ状の可動性突起をもつことに由来する。

1−1　ヒゲジロハサミムシ *Anisolabella marginalis*

標本：1♀　20220815　名東区藤巻町（写真1−1）

体長：20〜30 mm。無翅。「髭白」だが，触角は黒色で，先端付近に白い節がある。分布：本州・四国・九州

1−2　ハサミムシ（ハマベハサミムシ）*Anisolabis maritima*

標本：1♂　20110717　昭和区滝川町（写真1−2）

体長：15〜36 mm。無翅。「浜辺」の名は，海浜でよく見られることから来ているが，各地に普通である。文献4では，単に「ハサミムシ」としている。分布：日本。世界共通種

2　ナナフシ目 Order Phasmatodea

2−1　ナナフシ（ナナフシモドキ）*Ramulus mikado*

観察・写真撮影：5♀　20060430　昭和区八事本町興正寺（写真2−1A：群がる初齢幼虫）；1♀　20060818　千種区東山公園（写真2−1B：幼虫，隠蔽擬態）；1♀　20080420　昭和区八事本町興正寺（写真2−1C：初齢幼虫）；1♀　20080625　千種区東山公園（写真2−1D：羽化，午前11:24撮影）

標本：1♀　20080806　千種区東山公園（写真2−1E：体長84 mm）；1♀　20100314（写真2−1F：初齢幼虫，東山公園産の個体から産卵・飼育）；1♀　20170812　同地（写真2−1G，H：同個体の卵，長径約4 mm）　体長82〜92 mm。

単為生殖。♂は稀。無翅。産卵は落下方式。食植物：フジ，エノキ，カキノキ，ヤマブキ，イチゴ類，サクラ類，コナラ類，ヌルデなど多食性。サンゴジュも食べる。分布：本州・四国・九州。本種の学名については，混乱が繰り返され，文献24では，岡田[25]に従い，*Baculum irregulariterdentatum* としたが，ここでは文献5に依って *Ramulus mikado* とした。学名の変更により，和名もナナフシ「モドキ」にされてしまうという事態が生じた[24]。

2−2　トゲナナフシ *Neohirasea japonica*

標本：2♀　20200902　名東区植園町（死骸）；1♀　20210908　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真2−2A：体長59 mm，B：卵，直径約2 mm，加賀谷みえ子）；1♀　20230822　名東区植園町（体長65 mm，死骸）；1♀　20230916　同地（体長60 mm，死骸）；1♀　20231013　名東区藤巻町（体長68 mm，死骸）

単為生殖。♂は稀。無翅。2020年以降，東山周辺で観察されるようになった。産卵は落下方式。食植物：アザミ類，キイチゴ類，バラ類，シダ類など多食性。分布：本州・四国・九州

2−3　タイワントビナナフシ *Sipyloidea sipylus*

観察・写真撮影：1♀　千種区星が丘元町　20080604（写真2−3A：初齢幼虫）；1♀　20110915　千種区東山公園（写真2−3B：幼虫）

標本：1♀　20170914　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真2−3C，D：卵，長径約5 mm，江崎秀男）　体長（翅端まで）65〜73 mm。

単為生殖。日本では，♂は未知。南方系の種で，名古屋市内では，2004年に初めて採集された[24]。卵は，粘着性に1個ずつ産み付けられる。有翅で，よく飛ぶ。食植物：キイチゴ類，フジ，ヌルデ，キクなど多食性。分布：本州・四国・九州

3　カマキリ目 Order Mantodea

3−1　ウスバカマキリ *Mantis religiosa*

観察・写真撮影：1 ex　20100820　千種区東山公園（写真3−1：淡褐色型）

体長：♀59〜66 mm，♂52〜66 mm。緑色型と淡褐色型がある。分布：日本

3−2　コカマキリ *Statilia maculata*

観察・写真撮影：1 ex　20060930　千種区東山公園（写真3−2A：ジョロウグモに捕食される）；1 ex　20221015　名東区藤巻町（写真3−2B，C：威嚇姿勢）

体長：♀46〜63 mm，♂36〜55 mm。分布：本州・四国・九州

3−3　オオカマキリ *Tenodera sinensis*

観察・写真撮影：1♂　20080903　千種区東山公園（写真3−3A：ショウリョウバッタ♂を捕えた瞬間）；1♂　20210903　名東区藤巻町（写真3−3B）；1♀　20221016　同地（写真3−3C）

体長：♀75〜95 mm，♂68〜90 mm。分布：日本

3−4　ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera*

観察・写真撮影：1♀　20050827　昭和区八事本町興正寺（写真3−4A：樹液にやって来る昆虫を狙うが，コクワガタ♀には歯が立たないようである）；1♀　20061021　千種区東山公園（写真3−4B）

体長：♀52〜71 mm，♂45〜65 mm。緑色型と褐色型がある。分布：日本

3−5　ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula venosa**

観察・写真撮影：1♂　20140906　千種区星が丘元町（写真3−5A，市島舞）；♀♂　20160927　同地（写真3−5B：交尾中）；1♂　20211001　同地（写真3−5C）

体長：♀71〜80 mm，♂64〜83 mm。在来種のハラビロカマキリよりも大型。在来種とは，前胸腹板が桃色，前肢腿節の突起が歯状で10個程度（在来種では瘤状で3個程度）であることにより区別できる。♀が交尾中に♂の頭部を食いちぎって捕食するのは，主に飼

育中などで狭い環境に置かれた場合に限るとされるが，野外でも見られた（写真3−5B）。2000年以降，おそらく中国から侵入した外来種と考えられている。愛知県では2014年に初めて確認された[26]。なお，文献5では，*H. venosa*には該当しないとして学名を不詳としている。前種と本種との鑑別は，野外での生態写真のみでは区別できないものが多いので，ここでは確実に識別できたもののみを掲げた。

4　バッタ目 Order Orthoptera

4−1　エンマコオロギ *Teleogryllus emma*#

観察・写真撮影：1♀　20111104　昭和区八事本町興正寺；1♀　20220910　名東区藤巻町東山公園荒池ひろば（写真4−1A）；1♂　20230729　同地（写真4−1B：幼虫）

体長（翅端まで）：♀43〜44 mm，♂39〜43 mm。分布：日本

4−2　モリオカメコオロギ *Loxoblemmus sylvestris*#

標本：1♂　20221022　名東区藤巻町（写真4−2A，B：腹面）

体長：♀13〜16 mm，♂14〜15 mm。腹面が赤味がかることで，次種と区別できる。分布：本州・四国・九州

4−3　ハラオカメコオロギ *Loxoblemmus campestris*#

観察・写真撮影：1♂　20090816　昭和区八事本町興正寺（写真4−3A）；1♂　20091009　名東区藤巻町（写真4−3B）

体長：♀13〜15 mm，♂15 mm。腹面は白色。分布：日本

4−4　ツヅレサセコオロギ *Velarifictorus micado*#

標本：1♀　20061017　千種区東山公園（写真4−4A）；1♂　20170910　千種区平和公園（写真4−4B：体長15 mm）

分布：日本

4−5　クマスズムシ *Sclerogryllus punctatus*#

標本：1♀　20201108　昭和区滝川町（写真4−5）

体長：約12 mm。分布：本州・四国・九州

4−6　アオマツムシ *Truljalia hibinonis*#

観察・写真撮影：1 ex　20080824　昭和区八事本町興正寺（写真4−6A：幼虫）；1♀　20080927　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真4−6B，加賀谷みえ子）；1 ex　20120731　天白区相王山緑地（写真4−6C, 若齢幼虫）；1♂　20190915　名東区猪高緑地（写真4−6D）

体長（翅端まで）：♀約33 mm，♂約27 mm。樹上性。1997〜2023年の観察では，東山周辺での初鳴きは，平均8月12日（7月30日〜8月20日）であった。11月初旬まで鳴き声が聞かれる。分布：本州・四国・九州。中国からの人為的移入[24]。

4−7　クサヒバリ *Svistella bifasciata*#

観察・写真撮影：1♀　20060902　千種区東山公園（写真4−7A）

標本：1♀　20100913　千種区東山公園（写真4−7B：翅端まで体長5.5 mm）

分布：本州・四国・九州

4−8　シバスズ *Polionemobius mikado*#

観察・写真撮影：1♀　20220917　名東区藤巻町東山公園荒池ひろば（写真4−8A）

標本：1♂　20170929　名東区藤巻町（写真4−8B：体長5 mm）

体長：♀約7 mm，♂約6 mm。分布：日本

4−9　カネタタキ *Ornebius kanetataki*#

観察・写真撮影：；1♂　20161009　昭和区滝川町（写真4−9A）；1♀　20221008　同地（写真4−9B）

体長:7〜11 mm。屡々屋内に侵入する。8月初旬，アオマツムシと同じ頃から鳴き始め，12月初旬まで鳴き声が聞かれることもある。分布：本州・四国・九州

以下の4−10から4−15までは鳴き声のみの観察だが，東山周辺に確実に生息している種である。

4−10　マツムシ *Xenogryllus marmoratus*#

8月の後半頃から東山動植物園周辺や昭和区山里町・八雲町などで鳴き声が聞かれることがあるが，少ない。

4−11　スズムシ *Meloimorpha japonica*#

9月頃，名東区山香町で鳴き声が聞かれることがあるが，少ない。

4−12　カンタン *Oecanthus longicauda**#

8月後半から，東山動植物園北側（千種図書館の南側）などで鳴き声が聞かれる。

4−13　キンヒバリ *Natula matsuurai**#

本州では主に幼虫越冬であるが，成虫でも越冬する[5)]。5月頃から名東区山香町の新池畔や東山動植物園周辺の湿地で鳴き声が聞かれる。3月に鳴き声が聞かれたこともある。

4−14　マダラスズ *Dianemobius nigrofasciatus*#

東山公園周辺や昭和区八事本町などの草地で，2019〜2022年までの平均で6月9日（6月4日〜6月15日）に初鳴きが聞かれた。鳴き声の似ているシバスズは，主に9月頃から鳴き声が聞かれる。

4−15　ケラ *Gryllotalpa orientalis*#

7月頃，東山公園周辺や昭和区滝川町の道路側溝で鳴き声が聞かれることがあるが，少ない。

4−16　マダラカマドウマ *Diestrammena japonica*

観察・写真撮影：1♂　20060707　千種区東山公園（写真4−16A：死骸）；2♂　20060709　昭和区八事本町興正寺（写真4−16B：幼虫）

体長：♀33 mm，♂24〜28 mm。分布：日本

4−17　クラズミウマ *Diestrammena asynamora*

観察・写真撮影：1♀　20220314　昭和区滝川町（写真4−17）

体長：15〜17 mm。「蔵住馬」で，人家及びその周辺に見られる。成虫は夏から秋に多いとされるが[5)]，早春に見られた。分布：本州・四国・九州。

4−18　カマドウマ *Atachycines apicalis*

観察・写真撮影：1♀　20200923　名東区植園町（写真4−18）

標本：1♀　199108　昭和区八事本町興正寺（体長15 mm）

体長：♀12〜23 mm，♂19〜22 mm。分布：日本

4−19　コロギス *Prosopogryllacris japonica*

観察・写真撮影：1♂　20110708　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真4−19）

体長：約30 mm。幼虫で越冬する。分布：本州・四国・九州

4−20　ヤブキリ *Tettigonia orientalis*#

観察・写真撮影：1♀　20140621　千種区平和公園（写真4−20A）；1♂　20170627　昭和区滝川町（写真4−20B）；1 ex　20190428　名東区猪高緑地（写真4−20C：ハルシオン花上の初齢幼虫）；1♀　20190721　同地（写真4−20D）；1♂　20200729　千種区園山町（写真4−20E）

体長（翅端まで）：♀47〜58 mm，♂45〜52 mm。若齢幼虫は，ハルシオン，ヒメジョオン，タンポポなどの花上に見られる（写真4−20C）が，次第に肉食性を増す。1997〜2023年の観察では，初鳴きは平均6月21日（6月15日〜6月30日）で，ヒガシキリギリスよりも少し早く鳴き始める。緑色型が多いが，写真4−20Eは，肢の褐色斑が目立つ。主に鳴き方によって多くの亜種あるいは個体群に分けられているが[5, 6]，遺伝子解析を用いた検討が必要である。分布：日本

4−21　ヒガシキリギリス *Gampsocleis mikado*#

観察・写真撮影：1 ex　20030517　昭和区八事本町興正寺（写真4−21A：緑色型幼虫）；1 ex　20060514　同地（写真4−21B：褐色型幼虫）；1♂　20080701　千種区東山公園（写真4−21C：緑色型幼虫。右はヒメギス♀成虫）；1♂　20080709　同地（写真4−21D：緑色型）；1♀　20080805　同地；1♂　20140628　千種区平和公園（写真4−21E：褐色型）

体長（翅端まで）：♀25〜40 mm，♂26〜42 mm。2001〜2023年の観察では，初鳴きは平均6月28日（6月18〜7月11日）であった。緑色型と褐色型がある。いわゆるキリギリスは，ニシキリギリス *G. buergeri* とヒガシキリギリスに分けられ，愛知県のものはヒガシキリギリスとされているので，ここではそれに従っておく。ニシキリギリスとは，①前翅側面に通常，黒斑がある，②発音器が大きい，③翅が短く，腹端と同じか，やや短い，などで区別できるとされるが，遺伝子解析による検討が必要である[27]。

4−22　ヒメギス *Eobiana engelhardti*#

観察・写真撮影：1♂　20080624　千種区東山公園（写真4−22A：背部緑色型）；1♂　20130606　千種区平和公園（写真4−22B：黒褐色型幼虫）；1♂　20140628　同地（写真4−22C：褐色型）；1♀　20140822　同地（写真4−22D：背部緑色型）；1♀　20190601　名東区猪高緑地（写真4−22E：茶褐色型幼虫）

体長：♀17〜27 mm，♂18〜25 mm。東山公園や平和公園の湿った草地に見られる。6月後半頃から鳴き始め，ヒガシキリギリスよりもやや早い。短翅型と長翅型があり，東山周辺では短翅型が多い。長翅型は高標高地に多いという[5]。通常褐色〜黒褐色で濃淡がある。背部緑色型もある。分布：日本

4−23　クサキリ *Ruspolia lineosa*#

観察・写真撮影：1♀　20070814　名東区藤巻町（写真4−23A：緑色型）；1♂　20070824　同地（写真4−23B：褐色型）

体長（翅端まで）：♀約47 mm，♂37〜44 mm。緑色型，褐色型，中間型がある。分布：本州・四国・九州

4−24　クビキリギス *Euconocephalus varius*[#]

観察・写真撮影：2♂　20060923　千種区東山公園（写真4−24A：緑色型幼虫，B：緑色型成虫）；2♀　20140822　千種区平和公園（写真4−24C：完全緑色型幼虫，D：褐色型幼虫）；　1♀　20141010　同地（写真4−24E：緑色型）；1♂　20220917　名東区藤巻町東山公園荒池ひろば（写真4−24F：褐色型）

体長（翅端まで）：50〜57 mm。成虫で越冬し，春4月頃から鳴き始める。1988〜2022年の観察では，初鳴きは平均4月19日（3月23日〜5月1日）であった。秋に羽化し，越冬前の11月に鳴き声を聞いたことがある。完全緑色型，褐色型の他，緑色に僅かに褐色を混ずる緑色型もある。分布：日本

4−25　ホシササキリ *Conocephalus maculatus*[#]

観察・写真撮影：1♀　20140712　千種区平和公園（写真4−25A：淡褐色型）；1♀　20181020　名東区猪高緑地（写真4−25B：緑色型）；1♀　20210923　昭和区滝川町（写真4−25C：濃褐色型）

体長（翅端まで）：♀22〜27 mm，♂21〜27 mm。緑色型と褐色型があり，褐色型にも濃淡がある。「ホシ（星）」は，上翅の褐色斑紋列に由来する。分布：本州・四国・九州

4−26　ササキリ *Conocephalus melaenus*[#]

観察・写真撮影：1♀　20110816　千種区東山公園（写真4−26A：幼虫）；1♀　20111023　名東区猪高緑地（写真4−26B）；1♂　20140818　千種区平和公園（写真4−26C）

体長（翅端まで）：♀20〜28 mm，♂21〜24 mm。若・中齢幼虫は赤褐色で，他の近縁種とは明らかに異なり，熱帯性森林昆虫の特徴であるという[6)]。分布：本州・四国・九州

4−27　ハタケノウマオイ *Hexacentrus japonicus**[#]

観察・写真撮影：1♀　20080924　名東区藤巻町；1♀　20181108　千種区平和公園（写真4−27A，B，C: 産卵・孵化初齢幼虫）

体長：♀約47 mm，♂約30 mm。近似種のハヤシノウマオイ *H. hareyamai* に比べて背面の斑紋は淡褐色〜黄褐色と薄い。鳴き声も「スイッチョ・スイッチョ」と速鳴きで，ハヤシノウマオイの「スーイッチョ」と長く延ばす鳴き方とは異なる。分布：本州・四国・九州。東山周辺にはハヤシノウマオイも生息するらしい[28)]。

4−28　ササキリモドキ *Kuzicus suzukii*[#]

観察・写真撮影：1♀　20100904　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真4−28A：燈火に飛来）；1♂　20110918　同地（写真4−28B：死骸）

体長：♀11〜13 mm，♂13〜15 mm。よく燈火に飛来する。分布：本州・四国・九州

4−29　ツユムシ *Phaneroptera falcata*[#]

観察･写真撮影:1♂　20170910　昭和区山里町（写真4−29A）;1♂　20171005　同地（写真4−29B）

体長（翅端まで）：29〜37 mm。基本的に緑色型のみである。分布：日本

4−30　アシグロツユムシ *Phaneroptera nigroantennata*[#]

観察・写真撮影：1 ex　20110810　千種区東山公園（写真4−30A：初齢幼虫）；1 ex　20170715　名東区猪高緑地（写真4−30B：初齢幼虫）

初齢幼虫は緑色に褐色斑が交じるが，これは森林性ツユムシ属幼虫の特徴という[5)]。成

虫は夏～秋に出現する。分布：日本

4−31　セスジツユムシ *Ducetia japonica*#

観察・写真撮影：1♀　20021103　昭和区八事本町興正寺（写真4−31A：褐色型）；1♀　20140830　千種区平和公園（写真4−31B：緑色型）；1♂　20210906　名東区藤巻町（写真4−31C：緑色型）

体長（翅端まで）：33～47 mm。分布：本州・四国・九州

4−32　ヘリグロツユムシ *Psyrana japonica*#

観察・写真撮影：5 ex　20050528　千種区東山公園（写真4−32A：アカメガシワ葉上の初齢幼虫）；1 ex　20110604　同地（写真4−32B：初齢幼虫）

初齢幼虫は，5月下旬～6月上旬に，アジサイやアカメガシワの葉上で，屡々群がって観察される。成虫は8～9月に出現する。分布：日本

4−33　サトクダマキモドキ *Holochlora japonica*#

観察・写真撮影：1♂　20111103　昭和区滝川町（写真4−33A：燈火に飛来）；1 ex　20170609　千種区東山公園（写真4−33B：初齢幼虫）；1♀　20170811　同地（写真4−33C）

体長（翅端まで）：45～62 mm。近似種のヤマクダマキモドキ *H. longifissa* とは，前腿節が赤褐色でないことで区別できる。分布：本州・四国・九州

4−34　ハネナガヒシバッタ *Euparatettix insularis**

標本：1 ex　20220629　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真4−34：翅端まで体長13 mm）

分布：本州・四国・九州

4−35　トゲヒシバッタ *Criotettix japonicus**

標本：1♀　20150715　名東区藤巻町（写真4−35：翅端まで体長17 mm）

分布：日本

4−36　ヒシバッタ（ハラヒシバッタ）*Tetrix japonica*

観察・写真撮影：1 ex　20090607　昭和区八事本町興正寺（写真4−36A）；1 ex　20170826　名東区藤巻町（写真4−36B）

体長：♀9～14 mm，♂8～10 mm。色彩・斑紋には変異が多い。分布：日本

4−37　オンブバッタ *Atractomorpha lata*

観察・写真撮影：1♀　20051002　昭和区八事本町興正寺（写真4−37A：緑色斑点型）；1♀　20080921　昭和区滝川町（写真4−37B：褐色型）；♀♂　20211016　千種区亀の井（写真4−37C：♀褐色型，♂緑色型，加賀谷みえ子）

体長（翅端まで）：♀40 ～ 42 mm，♂20 ～ 25 mm。緑色型と褐色型があるが，両型ともに黒褐色の斑点が散在するものもある。和名は，♂が♀の背部に摑まっている（おんぶしている）のをよく見かけることによる。一般に飛べない。分布：日本

4−38　ツチイナゴ *Patanga japonica*#

観察・写真撮影：1 ex　20060909　千種区東山公園（写真4−38A：幼虫）；1 ex　20060909　同地（写真4−38B：幼虫）；1 ex　20090831　同地（写真4−38C：幼虫）；1 ex　20091018　昭和区八事本町興正寺（写真4−38D）；1 ex　20120526　天白区農業センター（写真4−38E：越冬後の個体）；1 ex　20170514　千種区平和公園（写真4−38F：越冬後の個体）；

1 ex　20181108　同地（写真4−38G）

体長（翅端まで）：♀50〜70 mm，♂50〜55 mm。成虫は茶〜淡褐色。幼虫は黄緑色〜淡褐色。成虫で越冬する。食植物としてクズを好む。分布：本州・四国・九州

4−39　コバネイナゴ *Oxya yezoensis*

観察・写真撮影：♀♂　20060923　千種区東山公園（写真4−39A：負ぶさっている方が♂）；2 ex　20140712　千種区平和公園（写真4−39B：褐色型，C：緑色型）；1 ex　20170826　名東区藤巻町（写真4−39D）；♀♂　20181020　名東区猪高緑地（写真4−39E：上が♂）；1 ex　20181020　同地（写真4−39F）

体長:♀18〜40 mm，♂16〜33 mm。幼虫は褐色系の個体もあるが，成虫は，濃淡はあっても緑色系である。背部の赤みが強い個体も見られる（写真4−39F）。嘗ては稲の害虫として嫌われたが，農薬の使用によって激減し，現在ではむしろ東山周辺の草原で見られる。分布：日本

4−40　ショウリョウバッタ *Acrida cinerera*[#]

観察・写真撮影：1♀　20050723　昭和区八事本町興正寺（写真4−40A：褐色型）；1♀　20071020千種区東山公園（写真4−40B：緑色型）；1♀　20120731　天白区戸笠公園（写真4−40C：中間型）

体長（翅端まで）：♀75〜80 mm，♂40〜50 mm。緑色〜褐色で，中間型もある。脱皮時に環境によって体色を変えることができるという[5]。和名は「精霊蝗虫」で，精霊（しょうりょう）送り（8月15日，本来は旧暦7月15日）の頃に多くみられることに由来する。分布：本州・四国・九州

4−41　ツマグロバッタ（ツマグロイナゴ）*Stethophyma magister**[#]

観察・写真撮影：1♂　20160807　名東区猪高緑地（写真4−41A）；1♂　20190806　千種区平和公園（写真4−41B）

体長（翅端まで）：♀45〜49 mm，♂33〜42 mm。和名は「端黒（つまぐろ）」バッタで，翅端が黒色であることに由来する。分布：日本

4−42　マダラバッタ *Aiolopus thalassinus*

観察・写真撮影：1 ex　20140928　昭和区八事本町興正寺（写真4−42A：緑色型）；1♀3♂　20230715　名東区藤巻町荒池ひろば（写真4−42B：緑色型♂，C：褐色型♂，D：中間型♀）

体長（翅端まで）:♀34〜35 mm，♂27〜31 mm。褐色型，緑色型及び中間型があるが，東山周辺では褐色型が多い。分布：日本

4−43　トノサマバッタ *Locusta migratoria*

観察・写真撮影:1♀　20140818　千種区平和公園（写真4−43A：0802に採集した幼虫，B：飼育，羽化した成虫，体長46 mm）；1 ex　20190601　名東区猪高緑地（写真4−43C：褐色型幼虫）

体長（翅端まで）：♀45〜65 mm，♂35〜40 mm。緑色〜褐色。分布：日本

4−44　クルマバッタモドキ *Oedaleus infernalis*

観察・写真撮影：1 ex　20070701　昭和区八事本町興正寺（写真4−44A：幼虫）；1 ex　20110812　同地（写真4−44B）；1 ex　20110918　昭和区滝川町（写真4−44C）；1 ex　20140802　千種区平和公園（写真4−44D：ナガコガネグモの餌食）

体長（翅端まで）：♀55～65 mm，♂32～45 mm。通常，褐色。分布：日本

4–45　イボバッタ *Trilophidia japonica*

観察・写真撮影：1 ex　20180819　名東区猪高緑地（写真4–45A）；2 ex　20190827　名東区牧野ヶ池緑地（写真4–45B）

体長（翅端まで）：♀約35 mm，♂約24 mm。灰褐色で，裸地面に溶け込む隠蔽色。分布：本州・四国・九州

5　アミメカゲロウ目（脈翅目）Order Neuroptera

5–1　ウスバカゲロウ *Hagenomyia micans*

標本：1 ex　20160813　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真5–1：体長31 mm，九澤香織）

幼虫は，いわゆる「アリジゴク」である。分布：日本

5–2　ホシウスバカゲロウ *Glenuroides japonicus*

標本：1 ex　20160711　千種区星が丘元町（写真5–2：体長30 mm，一色忍）

分布：日本

6　ハチ目（膜翅目）Order Hymenoptera

6–1　タイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum*

観察・写真撮影：1 ex　20140417　千種区平和公園（写真6–1A）

標本：1 ex　20140615　昭和区滝川町（体長19 mm，死骸）：1 ex　20180610　同地（写真6–1B：体長24 mm，死骸）；1 ex　20230728　同地（体長23 mm，死骸）

中国からの外来種。愛知県では，2006年に最初に記録された[26]。枯竹に営巣する。全身黒色で，胸部が黄色の在来種クマバチと区別できる。

6–2　クマバチ *Xylocopa appendiculata*

標本：1 ex　19890715　昭和区鶴舞町（体長20 mm）；1 ex　19930327　昭和区八事本町興正寺（写真6–2）

成虫で越冬する。分布：日本

6–3　コマルハナバチ *Bombus ardens*

標本：1♀（女王バチ）　201404　千種区東山公園　（写真6–3A，B：体長21 mm，死骸）

分布：日本

6–4　ミツバチ（ニホンミツバチ）*Apis cerana*

標本：1♀（働きバチ）　19920815　昭和区滝川町（写真6–4：体長11 mm，死骸）；1♀（働きバチ）　200309　（体長11 mm）

分布：本州・四国・九州

6–5　ナシモンキマダラハナバチ *Nomada pyrifera*

観察・写真撮影：1 ex　20160503　千種区平和公園（写真6–5）

体長：約10 mm。和名は「梨紋黄斑」ハナバチで，腹部の黄色紋が梨に似ていることに由来するらしい。分布：本州・四国・九州

6–6　オオハキリバチ *Chalicodoma sculpturalis*

標本：1 ex　198508　昭和区滝川町　（体長23 mm）；1 ex　20000915　同地　（写真6–6：

体長23 mm，死骸）

「葉切」バチであるが，一般のハキリバチと異なり，植物の葉を切り取って巣をつくることはなく，竹筒や樹木の洞などに営巣する[29]。分布：日本

6−7　トゲムネアリバチ *Bischoffitilla ardescens*

観察・写真撮影：1 ex　20060521　昭和区八事本町興正寺（写真6−7）

体長：4〜8 mm。コケシチビハナバチに寄生する[4]。分布：本州・四国・九州

6−8　キアシナガバチ *Polistes rothneyi*

観察・写真撮影：1 ex　20100630　名東区藤巻町（写真6−8A，B：ナナフシを捕食）；1 ex　20130721　千種区星が丘元町（写真6−8C：カマキリを捕食，阿知波佳子）

体長：20〜26 mm。隠蔽擬態で有名なナナフシ（ナナフシモドキ）の忍術は，キアシナガバチには通用しないようである（写真6−8A, B）。獰猛な狩人カマキリをも捕食する（写真6−8C）。分布：本州・四国・九州

6−9　セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae*

標本：1 ex　昭和区鶴舞公園　19920907（写真6−9：体長20 mm）

分布：本州・四国・九州

6−10　オオスズメバチ *Vespa mandarinia*

観察・写真撮影：1 ex　20061110　千種区東山公園（写真6−10A：コカマキリ♀を捕食）；1 ex　20050806　昭和区八事本町興正寺（写真6−10B：クマゼミ♂を捕食）；2 ex　20170820　同地（写真6−10C：オオスズメバチ同士の争い）

標本：1 ♀（働きバチ）　20031002　名東区藤巻町　（写真6−10D：体長34 mm，E：頭部顔面，死骸）；1 ♂　20101206　昭和区滝川町（写真6−10F：体長32 mm，内藤孝二郎）；1 ♀（女王バチ）　20140603　昭和区八事本町興正寺（写真6−10G：体長42 mm）

♂は，刺針がないこと，触角がやや長いこと（♀は12節，♂は13節），頭部がやや小さいことによって区別できる。セミやカマキリなどの大型種を含む多くの昆虫やクモ類を狩る。働きバチ同士の争いと思われる例も観察され（写真6−10C），異なる巣の構成員同士の共食いもあるのかもしれない。秋になると集団で他のスズメバチやアシナガバチの巣を襲い，幼虫・蛹を略奪する[30]。分布：日本

6−11　コガタスズメバチ *Vespa analis*

標本：1 ♀（働きバチ）　19960928　緑区大高緑地公園（写真6−11A：体長26 mm，B：頭部顔面）；1 ex　20040619　昭和区八事本町興正寺（体長22 mm）；1 ex　20040912　同地（体長24 mm，死骸）

分布：本州・四国・九州

6−12　ヒメスズメバチ *Vespa ducalis*

観察・写真撮影：1 ex　20050806　昭和区八事本町興正寺（樹液にやって来た）

標本：1 ex　19760801　瑞穂区（体長25 mm）；1 ex　20100928　昭和区滝川町（写真6−12A，B：体長30 mm，死骸）

腹端が黒色であることで近似種と区別できる。アシナガバチの巣を襲撃し，幼虫を略奪する[1]。分布：本州・四国・九州

6−13　モンスズメバチ *Vespa tropica*

標本：1 ex　20040912　昭和区八事本町興正寺　（写真6−13A：体長23 mm，B：腹部，

死骸）

腹部に特徴的な紋様がある。分布：日本

6−14　チャイロスズメバチ *Vespa dybowskii*

観察・写真撮影：2♀（働きバチ）　20070705　名東区藤巻町（写真6−14A：樹液にやって来た）

標本：1♀（働きバチ）　20030830　昭和区八事本町興正寺（写真6−14B：体長21 mm，死骸，尾端に刺針）

女王バチは自力でも巣を作るが，モンスズメバチやキイロスズメバチの巣に侵入して，女王バチのみを殺害し，その働きバチに自分の働きバチを養育させる[24, 30]。分布：北海道・本州

6−15　クロスズメバチ *Vespula flaviceps*

観察・写真撮影：1♀（働きバチ）　20050718　昭和区八事本町興正寺（写真6−15A：ビロウドコガネの類を捕食）；1♀（働きバチ）　20060923　千種区東山公園（写真6−15B：肉団子を作る）

標本：1♀（働きバチ）　20020727　昭和区八事本町興正寺（写真6−15C：体長11 mm，尾端に刺針，D：頭部顔面）

分布：日本

6−16　エントツドロバチ（オオカバフスジドロバチ）*Orancistrocerus drewseni*

標本：1 ex　200307　千種区星が丘元町（写真6−16A：体長18 mm，死骸，B:頭部顔面）

「煙突泥蜂」は，竹筒や岩の隙間などに，泥で巣を作り，巣作りの途中では，巣の入口を泥で煙突状に伸ばすことに由来する。また，「大樺斑条泥蜂」の「カバフ」は頭部前面の樺色（蒲色とも書く。赤みを帯びた黄色）斑，「スジ」は腹部にある2本の横条を意味する。分布：本州・九州

6−17　オオセイボウ *Stilbum cyanurum*

標本：1♀　19930728　昭和区滝川町（写真6−17A，B：体長15 mm，尾端から延びる管は産卵管，内藤通太郎）

セイボウは，「青蜂」で，青緑色の光沢を有する。幼虫はスズバチ，トックリバチ類などの巣に寄生する[4]。分布：本州・四国・九州

6−18　ミドリセイボウ（ミドリイツツバセイボウ）*Chrysis lusca*

標本：1♀　19960721　昭和区滝川町（写真6−18A，B：体長9 mm，尾端から延びる管は産卵管，C：尾端の5歯状突起と産卵管）

和名の「イツツバ（五つ歯）」は，尾端に5つの歯状突起を有することに由来する（写真6−18C）。幼虫はルリジガバチ類の巣に寄生する[1]。分布：本州・四国・九州

6−19　クロハラヒメバチ *Quandrus pepsoides*

観察・写真撮影：1 ex　20050731　昭和区八事本町興正寺（写真6−19A）

標本：1 ex　20070816　昭和区滝川町（写真6−19B，C：体長26 mm）

ヒメバチ科Ichneumonidaeは，甲虫，ハチ，チョウ，クモなど捕食する寄生バチである。本種は，エビガラスズメ，シモフリスズメの幼虫に寄生する[4]。分布：日本

6−20　シロスジトゲヒメバチ *Togea albofasciata*

観察・写真撮影：1 ex　20180504　名東区猪高緑地（写真6−20）

体長：17 mm。「トゲ（棘突起」」は，前伸腹節後方両側にある。キマダラヒカゲに寄生

する[2)]。分布：本州・四国

6−21　キンケハラナガツチバチ *Megacampsomeris prismatica*

観察・写真撮影：1 ex　20150416　千種区平和公園（写真6−21A）

標本：1 ex　20040612　名東区植園町　（写真6−21B，C：体長22 mm，死骸）

ツチバチ科Scoliidaeは，「土蜂」で，土中に巣を作り，コガネムシ類の幼虫に寄生する寄生バチである。本種は，「金毛腹長」ツチバチである。分布：本州・四国・九州

6−22　キオビツチバチ *Scolia oculata*

標本：1 ♀　19910907　昭和区南山町（写真6−22A：体長24 mm，B：頭部顔面）

頭部顔面に黄色斑はない。分布：日本

6−23　アカスジツチバチ *Scolia fascinates*

標本：1 ♀　201910　昭和区滝川町（写真6−23A，B：体長27 mm，C：頭部顔面）

頭部前面に黄色斑がある。分布：日本

6−24　オスグロハバチ *Dolerus japonicus*

観察・写真撮影：1 ♀　20110519　千種区東山公園（写真6−24）

体長：8 mm。「雄黒葉蜂」で，♂は全身が黒色。幼虫は植物の葉を食する。分布：日本

6−25　ハグロハバチ *Allantus luctifer*

標本：1 ex　20170614　名東区藤巻町（写真6−25：体長10 mm）

食植物：スイバ類，ギシギシ，イタドリなど。分布：日本

6−26　ルリチュウレンジ *Arge similis*

標本：1 ex　19930725　昭和区川名山町児童公園　（写真6−26：体長10 mm）

和名は「瑠璃鐫花娘子（ちゅうれんじ）」で，瑠璃色の♀成虫が，産卵管を使ってツツジ類の茎を鑿のように彫り，産卵することに由来するという。分布：日本

7　ハエ目（双翅目）Order Diptera

7−1　ビロウドツリアブ *Bombylius major*

観察・写真撮影：1 ex　20080327　千種区星が丘元町（写真7−1：体長11 mm，一色忍）

ツリアブ科Bombyllidaeで,「吊虻」は, ホバリング（停止飛行）しながら空中に静止し，上から吊り下げられたように見えることに由来する。ツリアブの幼虫の多くは，ハチの幼虫に寄生する。成虫は訪花性で吸蜜する。本種は，ヒメハナバチ科の幼虫に寄生する[2)]。分布：日本

7−2　クロバネツリアブ *Ligyra tantalus*

観察・写真撮影：♀♂　20160828　千種区平和公園（写真7−2：交尾中。上が♂）

体長：13〜19 mm。暖地性の種。分布：本州・四国・九州。

7−3　アオメアブ *Cophinopoda chinensis*

観察・写真撮影：1 ex　20100808　昭和区八事本町興正寺；1 ex　20221015　天白区農業センター（写真7−3，加賀谷みえ子）

体長：20〜29 mm。「青目虻」で，複眼が緑色である（「アオ」は，屡々「ミドリ」を意味する）。本種はムシヒキアブ科Asilidaeに属し,「虫引虻」の名称は, 他の昆虫等を捕え，引きずるようにして捕食（体液を吸う）することに由来する。分布：本州・四国・九州

7−4　マガリケムシヒキ *Neoitamus angusticornis*　（ムシヒキアブ科）

観察・写真撮影：1♀　20230603　千種区東山植物園（写真7−4，加賀谷みえ子）

体長：15〜20 mm。「曲り毛」は，後頭後縁に前方に直角に曲がる長黒毛を有することに由来する。♀は長い産卵管を有する。分布：日本

7−5　シオヤアブ *Promachus yesonicus*　（ムシヒキアブ科）

観察・写真撮影：1♀　20020721　昭和区滝川町（写真7−5A：アオドウガネを捕食）；1♀　20060728　千種区東山公園（写真7−5B：コガタスズメバチを捕食）；2♂　20110827　昭和区八事本町興正寺（写真7−5C：♂同士の争い）；1♂　20170715　名東区猪高緑地（写真7−5D）

体長：23〜30 mm。♂は尾端に白色毛を有する。他の昆虫を捕食する獰猛な狩人で，コガタスズメバチをも背後から襲う（写真7−5B）。また，写真7−5Cは♂同士の争いで，共食いの可能性がある。分布：日本

7−6　オオイシアブ *Laphria mitsukurii*　（ムシヒキアブ科）

観察・写真撮影：1 ex　20180504　名東区猪高緑地（写真7−6A）；1 ex　20190601　同地（写真7−6B：コメツキムシを捕食）

体長：15〜26 mm。大「石虻」であろうか。黒光りして頑丈そうで，石を想起させるのか。分布：日本

7−7　シマハナアブ *Eristalis cerealis*

観察・写真撮影：1 ex　20120503　昭和区八事本町興正寺（写真7−7）

体長：12 mm。ハナアブ科Syrphidaeに属する。「花虻」の成虫は訪花・吸蜜するが，幼虫の食性は捕食性，食植物性など多様である。分布：本州

7−8　オオハナアブ *Phytomia zonata*

観察・写真撮影：1 ex　20071122　昭和区八事本町興正寺（写真7−8）

体長：12〜16 mm。分布：日本

7−9　アシブトハナアブ *Helophilus virgatus*

観察・写真撮影：1 ex　20100509　昭和区八事本町興正寺（写真7−9A）；♀♂　20130420　名東区猪高緑地（写真7−9B：後ろが♂）

体長：12〜14 mm。「肢太」は，後肢腿節が太いことに由来する。分布：日本

7−10　ナガヒラタアブ *Asarkina porcina*

観察・写真撮影：1 ex　20221106　千種区東山公園（写真7−10，加賀谷みえ子）

体長：14〜17 mm。「長平虻」あるいは「長扁虻」で，ヒラタアブの名は体型が平たいことに由来する。分布：本州・四国・九州

7−11　コマバムツホシヒラタアブ *Scaeva komabensis*

観察・写真撮影：1 ex　20120408　昭和区滝川町；1♀　20221211　千種区亀の井（写真7−11，加賀谷みえ子）

体長：13〜15 mm。腹部に6個の淡黄色紋がある。5〜6月に出現するとあるが[4]，4月と12月に観察された。分布：日本

7−12　クロヒラタアブ *Betasyrphus serarius*

観察・写真撮影：1 ex　20230404　千種区星が丘元町（写真7−12：死骸，加賀谷みえ子）

体長：11〜12 mm。分布：本州・四国・九州

7−13　ミナミヒメヒラタアブ *Sphaerophoria indiana*

観察・写真撮影：1 ex　20230321　千種区東山植物園（写真 7−13，加賀谷みえ子）

体長：8〜9 mm。本種は，従来キタヒメヒラタアブ *S. phianthus* とされていたが，誤同定であることが判明した。分布：本州・四国・九州

7−14　ホソヒラタアブ *Episyrphus balteatus*

観察・写真撮影：1 ex　20090510　昭和区八事本町興正寺（写真 7−14）

体長：10〜11 mm。分布：日本

7−15　ヤマトヒラタアブ *Syrphus ribesii*

観察・写真撮影：1 ex　20090510　昭和区八事本町興正寺（写真 7−15）

体長：13〜14 mm。分布：北海道・本州・九州

7−16　アメリカミズアブ *Hermetia illucens*

標本：1 ex　19941009　昭和区滝川町（写真 7−16：体長 16 mm）

ゴミ捨て場や堆肥に発生する。アメリカ大陸に広く分布し，1950 年頃に日本に侵入した外来種[4]。分布：本州・四国・九州。ミズアブ科 Stratiomyidae に属する。「水虻」であり，本科の一部の種では幼虫期には水生である。

7−17　ベッコウバエ *Dryomyza formosa*

観察・写真撮影：1 ex　20230416　東山植物園（写真 7−17，加賀谷みえ子）

体長：10〜18 mm。「鼈甲蝿」で，鼈甲のように半透明で黄褐色の地に黒色の斑紋がある。樹液に飛来する。分布：日本

7−18　シナヒラタハナバエ（シナヒラタヤドリバエ）*Ectophasia rotundiventris*

標本：1 ex　19931031　昭和区滝川町（写真 7−18：体長 8 mm）

ヤドリバエ科 Tachinidae に属する。「宿り蝿」の幼虫は，他の昆虫などに捕食寄生する。本種は，カメムシ類（エビイロカメムシ，スコットカメムシなど）に寄生する[2]。分布：日本。和名のシナ（支那）は，中国に分布することに由来する。

7−19　メスアカケバエ *Bibio rufiventris*

標本：1 ♂　19920504　昭和区滝川町（写真 7−19：体長 11 mm）

♀は橙色だが，♂は黒色。成虫は春に出現し，♂は屡々群飛する。分布：日本。ケバエ科 Bibionidae に属する。「毛蝿」は，幼虫は土壌中などに生息し，腐植質を食する分解者である。

7−20　キイロホソガガンボ *Nephrotoma virgata*

観察・写真撮影：1 ex　20060610　千種区東山公園（写真 7−20A）；♀♂　20080615　昭和区八事本町興正寺（写真 7−20B：交尾中）

体長：12〜14 mm。分布：日本。ガガンボは，「大蚊」と書き，実際，大きな蚊のような風体だが，刺して吸血することはない。語源については，「蚊ヶ母（かがんぼ）」が転じた語とする記載もある。

7−21　ベッコウガガンボ *Dictenidia pictipennis*

観察・写真撮影：1 ex　20180504　名東区猪高緑地（写真 7−21）

体長：13〜15 mm。分布：日本

7−22　ホリカワクシヒゲガガンボ *Pselliophora bifascipennis*

観察・写真撮影：1 ex　20070627　千種区東山公園（写真 7−22A）

標本：1 ex　20090830　昭和区滝川町（写真 7−22B：死骸）

体長：約15 mm。「堀川櫛髭」ガガンボで，ホリカワは発見者に因む。分布：本州・九州

追補3

以後は，これまでに報告した目（もく）の追補である。

8 トンボ（蜻蛉）目 Order Odonata

8−1 アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis*

観察・写真撮影：1♂ 20220827 千種区東山植物園（写真8−1，加賀谷みえ子）

全長：♀29〜38 mm，♂30〜37 mm。分布：本州・四国・九州

8−2 リスアカネ *Sympetrum risi*

観察・写真撮影：1♂ 20080808 千種区東山公園（写真8−2A：未成熟）；1♂ 20181020 名東区猪高緑地（写真8−2B：成熟）

体長：♀31〜42 mm，♂34〜46 mm。いわゆる「赤とんぼ」の一種で，♂の腹部は成熟するにつれて黄褐色から赤色に変わる。種小名の *risi* および和名のリスは，Friedrich Ris（スイスの精神科医，昆虫学者，1867〜1931）に献名されたことに由来する（文献4, 31には「英国人」とある）。分布：日本

9 チョウ目（鱗翅目）Order Lepidoptera

9−I ガ類 Moths

9−1 スカシカギバ *Macrauzata maxima*

標本：1 ex 20230516 昭和区滝川町（写真9−1：前翅長26 mm）

食植物：クヌギ，アラカシ，ウバメガシ。分布：本州・四国・九州

9−2 ホシボシトガリバ *Demopsestis punctigera**

観察・写真撮影：1 ex 20230304 千種区星が丘元町（写真9−2，加賀谷みえ子）

標本：1 ex 20230323 千種区星が丘元町大学構内（死骸）

前翅長16〜19 mm。食植物：クヌギ，ミズナラ，カシワ。分布：日本

9−3 ウスバキエダシャク *Pseuderannis lomozemia**

標本：2 ex 20230320 千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（前翅長12 mm，死骸）；1 ex 20230330 同所（写真9−3：前翅長17 mm）

食植物：広食性。分布：日本

9−4 シロジマエダシャク *Euryobeidia languidata**

観察・写真撮影：1 ex 20230603千種区星が丘元町大学構内（写真9−4，加賀谷みえ子）

前翅長18〜25 mm。食植物：モチノキを食べるが，局所的で全国的に少ない[21)]。分布：日本

9−5 ビロウドスズメ *Rhagastis mongoliana*

観察･写真撮影:1 ex 20230624 千種区東山公園（写真9−5:サトイモ科のテンナンショウ類を食する幼虫，加賀谷みえ子）

成虫は3〜5月に出現する。食植物：広食性。分布：本州・四国・九州

9−6 トビイロスズメ *Clanis bilineata*

観察・写真撮影：1 ex　20111016　昭和区八事本町興正寺（写真9–6：終齢幼虫。クズの葉を摂食中）

成虫は6〜8月に出現する。食植物：ハギ類，クズ，ハリエンジュ。分布：本州・四国・九州

9–7　ホソバシャチホコ *Fentonia ocypete**

観察・写真撮影：1 ex　20100730　千種区東山公園（写真9–7：幼虫）

成虫は5月と8月に出現する。食植物：ミズナラ，コナラ，クヌギ，カシ類。分布：日本

9–8　アオアツバ *Hypena subcyanea*

観察・写真撮影：1 ex　20221029　千種区星が丘元町（写真9–8A，加賀谷みえ子）；1 ex　20230304　同地（写真9–8B，加賀谷みえ子）

開帳：20〜24 mm。成虫で越冬する。「青厚翅」であるが，青みを帯びた個体は少なく，基本的な色調は茶褐色である。食植物：ツルマメ。分布：北海道・本州。

9–9　アカキリバ *Gonitis mesogona*

観察・写真撮影：1 ex　20221211　千種区東山植物園（写真9–9，加賀谷みえ子）

前翅長17〜18 mm。成虫の出現期は6〜10月とあるが[8]，12月に観察された。四国では真冬も含め1年中よく見かけるとの記述もある[32]。食植物：広食性。分布：日本。

9–10　フタトガリアオイガ（フタトガリコヤガ）*Xanthodes transversa*

観察・写真撮影：1 ex　20110917　昭和区八事本町興正寺（写真9–10：幼虫）

成虫は5〜9月に出現する。食植物：フヨウ，ムクゲ，アオイ，ハマボウ，オクラ。分布：本州・四国・九州

9–11　ミツボシキリガ *Eupsilla tripunctata**

観察・写真撮影：1 ex　20060521　昭和区八事本町興正寺（写真9–11：幼虫）

成虫は，初冬から翌年4月頃出現し，成虫で越冬する。食植物：エノキ。分布：本州・四国・九州

9–12　カバキリガ *Orthosia evanida**

観察・写真撮影：1 ex　20120513　名東区猪高緑地（写真9–12A：幼虫）

標本：1 ex　20230317　昭和区滝川町（写真9–12B：燈火に飛来）

前翅長20〜21 mm。食植物：コナラ，クヌギ，アベマキ，カシワ，サクラ類，リンゴ。分布：日本

9–13　シロヘリキリガ *Orthosia limbate**

観察・写真撮影：1 ex　20140503　昭和区八事本町興正寺（写真9–13：幼虫）

成虫は，3〜5月に出現する。食植物：リンゴ，サクラ類，クヌギ，コナラ，アラカシ。分布：日本

9–14　ナカジロシタバ *Aedia leucomelas***

標本：1 ex　20230706　千種区星が丘元町（写真9–14A，B：前翅長17 mm，死骸）

食植物：ヒルガオ科（サツマイモ，ノアサガオ）。サツマイモの害虫として知られる。分布：本州・四国・九州

9–15　ホンドコブヒゲアツバ *Zanclognatha curvilinea**

標本：1 ex　20230615　昭和区滝川町（写真9–15A，B：前翅長14 mm，死骸）

食植物：未知。分布：本州・四国・九州

9–16　ナンカイカラスヨトウ *Amphipyra horiei***

観察・写真撮影：1 ex　20100719　昭和区八事本町興正寺（写真9–16）

開帳：56～68 mm。食植物：アベマキ。分布：本州・四国・九州

9–17　ヨトウガ *Mamestra brassicae*

観察・写真撮影：1 ex　20221008　千種区亀の井（写真9–17，加賀谷みえ子）

前翅長18～23 mm。「夜盗蛾」であり，昼間は土中や根際に潜み，夜間に出てきてキャベツ，ハクサイ，ダイコンなどを食害することに由来する。食植物：広食性。分布：日本

9–18　キノカワガ *Blenina senex*

標本：1 ex　20221110　名東区藤巻町東山公園荒池ひろば（写真9–18）

前翅長：18～20 mm。「木の皮蛾」で，名前の通り，樹皮に止まっていると，見事な隠蔽擬態になる。食植物:カキノキ，マメガキ，トキワガキ，ニワウルシ，サクラ類。分布:本州・四国・九州

9–19　コメノシマメイガ *Aglossa dimidiata*

観察・写真撮影：1♀　20230616　昭和区滝川町（写真9–19）

前翅長8～15 mm。食植物：貯蔵穀物類，動植物乾燥標本，乾燥動物質等。分布：日本

9–II　チョウ類 Butterflies

9–20　アカボシゴマダラ *Hestina assimilis***

観察・写真撮影：1 ex　20221106千種区東山植物園（写真9–20A：エノキ葉についた羽化殻，加賀谷みえ子）；1 ex　20230717　同地（写真9–20B：加賀谷みえ子）；1 ex　20230913　名東区山香町

前翅長：40～53 mm。羽化殻は，在来種ゴマダラチョウ *Hestina persimilis* とは，背面突起の形状で区別できる[33]。幼虫はエノキ類につき，春から秋まで反復して成虫が発生する。幼虫で越冬する。日本では奄美諸島に在来種が分布するが，現在，本州で拡散している個体は人為的放蝶による大陸産の亜種である。名古屋市内では，2011年に最初に発見された[26]。チョウ目では，ただ1種「特定外来生物」に指定されている。国外では，朝鮮半島から中国南東部，ベトナム北部に分布する。

9–21　モンシロチョウ *Pieris rapae*

標本：1♀（夏型）　20230624　名東区藤巻町東山公園荒池ひろば（写真9–21）

前翅長：約30 mm。馴染み深い，この種を態々取り上げたのは，愛知県の外来種リスト[26] に載っているからである。しかし，モンシロチョウは，少なくとも江戸時代には既に日本に生息しており，丸山応挙（1733～1795）や細川重賢（肥後藩主，1721～1785）の図譜に載っている[34]。また，古参の「外来種」といえども，必ずしも人為的な移入とは限らず，中国からの自力飛来説（日浦勇，1932～1983）もある。時代を遡るほど，現在日本に生息している生物（昆虫だけでなく）の多くは海外から入ってきたものということになり，どこかで線引きをしなければ，「外来種」で溢れかえってしまう。その線引きは，鎖国が終わった明治以降に限定すべきである。食植物:アブラナ科（とくにキャベツ）。分布:日本，朝鮮半島，中国，ヨーロッパ，アメリカ・オーストラリア（人為的移入）。

9–22　モンキチョウ *Colias erate*

観察・写真撮影：1♂　20230717　千種区東山植物園（写真9–22，加賀谷みえ子）

前翅長：32 mm。食植物：マメ科。分布：日本

9–23　ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

観察・写真撮影：1 ex　20210906　名東区藤巻町（写真9–23A）

標本：1 ex　20221003　名東区藤巻町（写真9–23B）

前翅長：17 mm。食植物：各種マメ科植物など。夏から晩秋にかけて日本の多くの地域に多産するが，温暖な地域（本州・四国・九州の太平洋沿岸）を除いて越冬できず，死滅する。文献11によると，名古屋市近辺は越冬可能な地域には含まれていない。世界的には，南ヨーロッパ，アフリカ，アジア南部，オーストラリアなどに広く分布する[11]。

9–24　ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata*

観察・写真撮影：1 ex　20230603　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真9–24，加賀谷みえ子）

前翅長：20 mm。食植物：ブナ科（クヌギ，コナラ，ミズナラ，ナラガシワ，アベマキ，カシワなど）。分布：北海道・本州・四国

10　カメムシ目（半翅目）Order Hemiptera

10–1　クヌギカメムシ *Urostylis westwoodii*

標本：1♂　20221208　千種区星が丘元町椙山女学園大学構内（写真10–1A：体長12 mm，B：腹部，両側の黒い点が気門）

腹部気門が黒色であることから近似種と容易に区別できる。寄主植物：ナラ類（とくにクヌギ）。分布：本州・四国・九州

10–2　ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon*

標本：1 ex　20200723　昭和区滝川町（写真10–2：体長4 mm）

食植物：スギ，アセビなど。分布：本州・四国・九州

10–3　トビイロツノゼミ *Machaerotypus sibilicus**

標本：1 ex　20180512　千種区平和公園（写真10–3A，B：体長6 mm）

分布：日本

10–4　フタテンオオヨコバイ *Epiacanthus stramineus**

標本：1 ex　20220629　名東区藤巻町（写真10–4）

体長：8〜9 mm。分布：北海道・本州

10–5　シャンタンアミガサハゴロモ（仮名）*Pochazia shantungensis**

標本：1 ex　20210929　千種区星が丘元町（体長8 mm，前翅長13 mm，死骸）；1 ex　20220701　同地（写真10–5：体長8 mm，前翅長13 mm，加賀谷みえ子）；1 ex　20230702　名東区猪高緑地

中国原産で，日本国内では2019年に近畿地方で発見されて以来，分布が拡大し，愛知県では2021年に確認されている[26]。種小名のシャンタンShantungは，中国山東省のことで，1977年に新種記載された[35]。韓国で害虫として問題化しているほか，最近ではロシアのソチ市にも侵入した。在来種のアミガサハゴロモ*P. albomaculata*に比べてやや大型で，前縁の白色紋の形状が異なることによって区別できる。

10−6　ヨスジヒシウンカ *Reptalus quadricinctus*

観察・写真撮影：1 ex　20100701　千種区東山公園（写真10−6）

体長5〜6 mm。分布：本州・四国・九州

10−7　イセリヤカイガラムシ *Icerya purchasi*

観察・写真撮影：1 ♀　20230502　千種区亀の井（写真10−7，加賀谷みえ子）

体長：5 mm。♂は稀。分布：本州・四国・九州。熱帯から温帯にかけて世界的に広く分布。オーストラリア原産で，1910年頃に米国・台湾から苗木に付着して侵入した。

11　甲虫目 Order Coleoptera

11−1　チャバネツヤハムシ *Phygasia fulvipennis***

標本：1 ex　20220605　千種区平和公園（写真11−1）

体長：5〜6 mm。食植物：ガガイモ。分布：本州・四国・九州

11−2　アオガネヒメサルハムシ *Nodina chalcosoma**

標本：1 ex　20230625　昭和区八事本町興正寺（写真11−2：体長2 mm）

食植物：ブドウ，テリハノイバラ，ノボタン。分布：本州・四国・九州

11−3　ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera nepalensis***

観察・写真撮影：1 ex　20201106名東区藤巻町；1 ex　20230506　名東区山香町

標本：1 ex　20201030　名東区藤巻町（写真11−3A，B：腹面，体長9 mm）；1 ex　20230702　名東区猪高緑地

食植物：サツマイモ，ノアサガオなど。分布：本州（東京以南）・四国・九州，中国，台湾，インド，ユーラシア大陸南東部から東南アジア。南西諸島では在来種または古参の移入種と考えられるが，1990年以降，本土に拡大し，名古屋市内では2020年に初めて記録された[26, 36]。

11−4　トビイロクチキムシ *Borboresthes cruralis**

標本：各1 ex　20190610；20190623（写真11−4）；20190629；20190630；20190702；20190721；20200603；20200613；20220705；20230721　全て昭和区滝川町（体長約7 mm）

2019年頃から自宅（昭和区滝川町）の燈火にしばしば飛来するようになった。時期は6〜7月に集中している。東山周辺では，近似種のクリイロクチキムシ *B. acicularis* も見られる[37]。本種とクリイロクチキムシとの差異は軽微であるが[38]，本種の方が，前胸背板がやや幅広で短く，体型はやや幅広だが，腹部は尾端に向かって急激に狭まる。分布：本州・四国・九州

11−5　ハラゲビロウドコガネ *Nipponoserica pubiventris**

標本：1 ♂　20220423　昭和区滝川町（写真11−5：体長8 mm）

分布：日本。近似種ワタリビロウドコガネ *N. peregrina* との違いは軽微で，上翅端の会合部が角張ることにより区別される[39]。しばしば燈火に飛来する。本種の方が，発生時期がやや早いようである。

おわりに

日本を含めた世界の昆虫相は，今大きく変貌しつつある。世界的な規模での昆虫の個体

数の減少や多様性の低下が危惧されている[40]（昆虫に限らず，全ての生物についてだが）。そして，これらの主な原因は，「人間活動」にある。

昆虫の個体数の減少や多様性の低下の要因は，

①環境破壊，土地転換（都市化や農地転換），農薬や除草剤の使用による土地の劣化

②地球温暖化（沸騰化！）と，それに伴う降雨や気候の極端化，砂漠化

③作為的か無作為的かを問わず，人為的移入による外来種の増加と在来種の駆逐

④地球温暖化による南方系の種の前進と北方系の種の後退

等々，早急に解決を迫られる難題が山積している。また，多様性の低下の一方では，サバクトビバッタのような害虫による深刻な被害も生じている[41]。

名古屋東山周辺に限っても，昆虫の多様性の低下，個体数の減少，外来種の増加は明らかである。最近では，毎夏のように「異常な」猛暑が続き，とくに2018年の極端な酷暑の後，東山近辺の昆虫の個体数，多様性ともに急激に劣化したという印象を持っている。昆虫の生息に適した環境は，東山周辺では，千種区の東山公園・平和公園，名東区の猪高緑地・牧野ヶ池緑地，昭和区の興正寺などに島状に残っているに過ぎない。とくに移動力の乏しい昆虫種は孤立して絶滅の危機に瀕し，周囲との遺伝的交流も途絶えてしまうであろう。本連載では，できるだけ最近の観察記録や標本を掲載するようにしたが，既に数十年前になってしまったものもあり，これらの種が現在も東山付近に生息しているか甚だ疑問である。

地球環境の崩壊は深刻さを増し，危機的状況に陥りつつある。環境破壊や地球温暖化に対する有効な対策が一刻も早く打ち出されることを切に願っている。

本研究は，2023年度椙山女学園研究費助成金（B）による助成を受けた。最後になったが，本連載にあたっては，沢山の方々から多大な御支援や御協力を頂いた。とくに加賀谷みえ子氏と一色忍氏は，貴重な写真や標本を提供して下さった。妻美智子と二人の息子は，ことあるごとに昆虫の存在を教えてくれた。ここに厚く御礼する次第である。

文　献

1）黒沢良彦・日高敏隆編：原色昆虫百科図鑑　小学館　1967
2）学研生物図鑑　昆虫Ⅲ　バッタ・ハチ・セミ・トンボほか　学研　1983（ISBN4-051003922）
3）新訂原色昆虫大圖鑑Ⅰ　蝶・蛾篇　北隆館　2007（ISBN978-4832608252）
4）新訂原色昆虫大圖鑑Ⅲ　トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目他　北隆館　2008（ISBN978-4832608276）
5）日本直翅類学会編：日本産直翅類標準図鑑　学研　2016（ISBN978-4054064478）
6）日本直翅類学会編：バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑 北海道大学出版会　2006（ISBN978-4832981614）
7）村井貴史・伊藤ふくお：バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑　北海道大学出版会　2011（ISBN978-4832913943）
8）岸田泰則：日本の蛾　学研　2020（ISBN978-4054067929）
9）今井初太郎：蛾の生体標本図鑑　メイツ出版　2020（ISBN978-4780423358）
10）みんなで作る日本産蛾類図鑑　http://www.jpmoth.org/
11）白水隆：日本産蝶類標準図鑑　学研　2006（ISBN978-4052022968）

12）尾園暁・川島逸郎・二橋亮：日本のトンボ改訂版　文一総合出版　2021（ISBN978-4829984086）
13）日本産コガネムシ上科標準図鑑　学研　2012（ISBN978-4054038479）
14）川上洋一：庭のイモムシケムシ　東京堂出版　2011（ISBN978-4490207385）
15）川上洋一：道ばたのイモムシケムシ　東京堂出版　2012（ISBN978-4490207828）
16）安田守：イモムシハンドブック　文一総合出版　2010（ISBN978-4829910795）
17）安田守：イモムシハンドブック②　文一総合出版　2012（ISBN978-4829981016）
18）安田守：イモムシハンドブック③　文一総合出版　2014（ISBN978-4829981191）
19）日本産幼虫図鑑　学研　2005（ISBN4-054023703）
20）愛知県の昆虫（上）　1990　愛知県昆虫分布研究会
21）愛知県の昆虫（下）　1991　愛知県昆虫分布研究会
22）村井貴史：バッタ・コオロギ・キリギリス 鳴き声図鑑　北海道大学出版会　2015（ISBN978-4832914001）
23）高嶋清明：鳴き声から調べる昆虫図鑑―おぼえておきたい75種　文一総合出版　2018（978-4829988121）
24）内藤通孝：名古屋東山周辺の昆虫相　Ⅰ．概論　椙山女学園大学研究論集（自然科学篇）2007; 38:137–149
25）岡田正哉：ナナフシのすべて　トンボ出版　1999（ISBN978-4887161146）
26）愛知県の外来種　ブルーデータブックあいち2021　https://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/
27）和田一郎：日本のキリギリスに対する認識の混乱について　月刊むし　2023; 629: 22–27
28）臼田明正・岡田正哉・穂積俊文・安藤尚・蟹江昇：なごやの昆虫　名古屋昆虫館　1989
29）竹内吉蔵：原色日本昆虫図鑑（下）　保育社　1955
30）松浦誠：スズメバチはなぜ刺すか　北海道大学図書刊行会　1988（ISBN978-4832971011）
31）石田昇三・小島圭三・石田勝義・杉村光俊：日本産トンボ幼虫・成虫検索図説　東海大学出版会　1988（ISBN978-4486010128）
32）高知の自然　https://blog.goo.ne.jp/sukiba/e/d4d09153f1631cee5fef8de3314b9da3
33）安田守：虫のぬけがら図鑑―脱皮と成長から見る昆虫の世界　ベレ出版　2021（ISBN978-4860646608）
34）安富和男：虫たちの生き残り戦略　中央公論新社　2002（ISBN978-4121016416）
35）Chou I, Lu C: On the Chinese Ricaniidae with description of eight new species. Acta Entomologica Sinica 1977; 20: 314–322
36）重藤裕彬・末長晴輝・南雅之・渡部晃平：ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内，特に琉球列島における分布の現状　ホシザキグリーン財団研究報告　2020; 23: 227–243
37）内藤通孝：名古屋東山の昆虫相　Ⅱ．甲虫目　(8)　オサムシ科，ゴミムシダマシ科など　椙山女学園大学研究論集（自然科学篇）　2015; 46: 103–116
38）秋田勝己・益本仁雄：日本産ゴミムシダマシ大図鑑　むし社　2016（ISBN978-4943955092）
39）小林裕和・松本武：日本産コガネムシ上科図説　第3巻　食葉群Ⅱ　昆虫文献六本脚　2011（ISBN978-4902649048）
40）Gサイエンス学術会議共同声明：地球規模での昆虫減少による生態系サービスの消失（仮訳）　学術の動向　2020; 25: 98–100
41）前野浩太郎：越境性害虫「サバクトビバッタ」の防除と対策　植物防疫所病害虫情報　2022; 126: 1–3

1−1

1−2

2−1A

2−1B

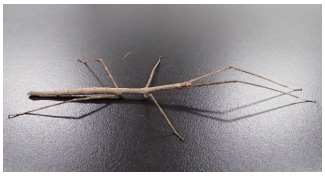
2−1C

2−1D

2−1E

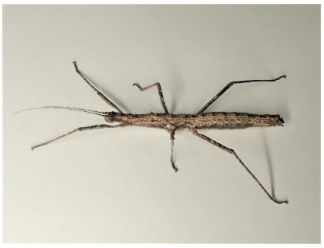
2−1F

2−1G



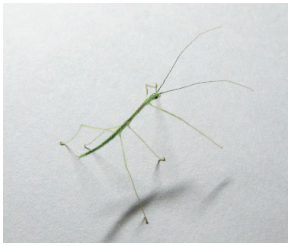
2−1H

2−2A

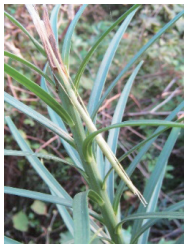


2−2B

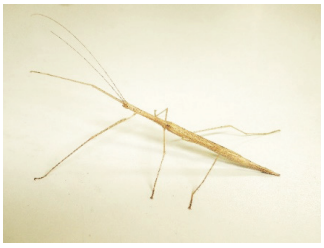
2−3A



2−3B



2−3C



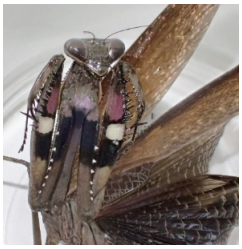
2−3D

3−1

3−2A

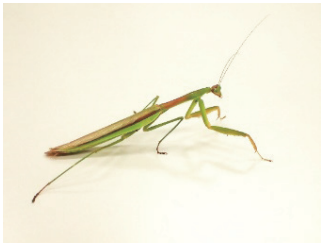
3−2B

3−2C



3−3A

3−3B

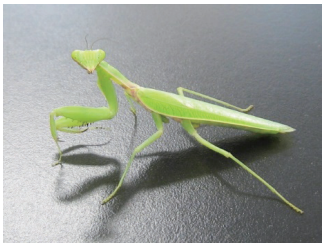


3−3C

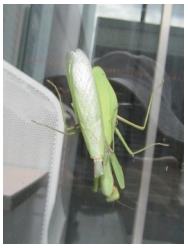
3−4A

3−4B

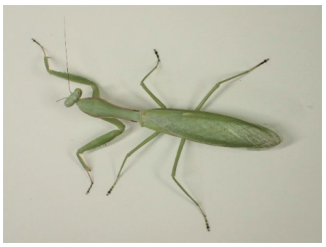
3−5A



3−5B



3−5C



4−1A

4−1B

4−2A

4−2B

4−3A

4−3B

4−4A

4−4B

4−5

4−6A

4−6B

4−6C

4−6D

4−7A

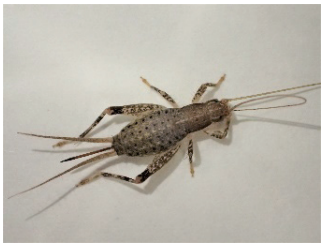
4−7B

4−8A

4−8B

4−9A

4−9B



4−16A

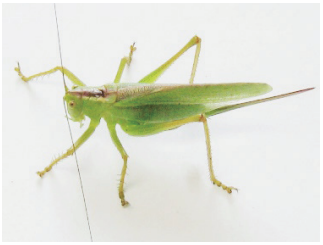
4−16B

4−17

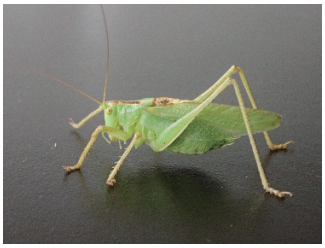
4−18

4−19

4−20A



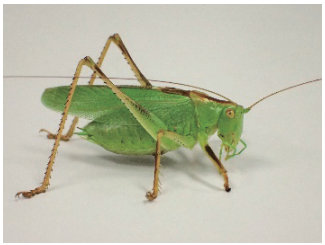
4−20B



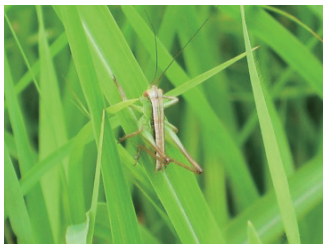
4−20C

4−20D

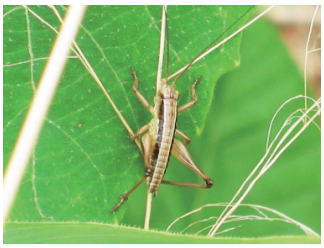
4−20E



4−21A



4−21B



4−21C

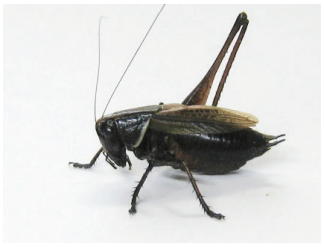
4−21D

4−21E

4−22A

4−22B

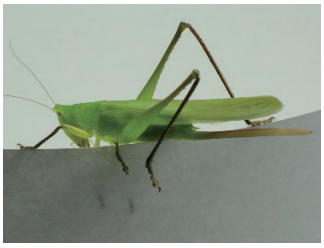
4−22C



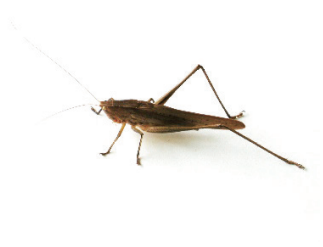
4−22D

4−22E

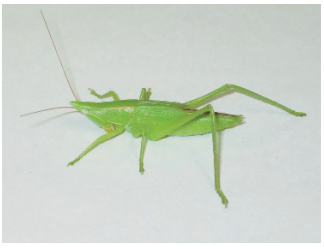
4−23A



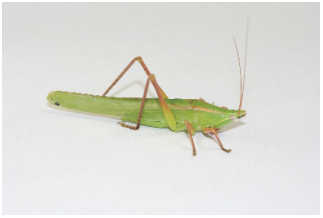
4−23B



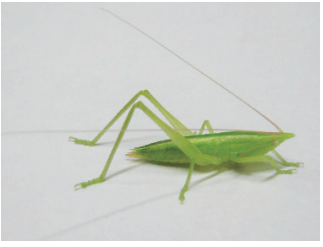
4−24A



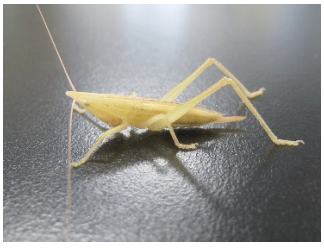
4−24B



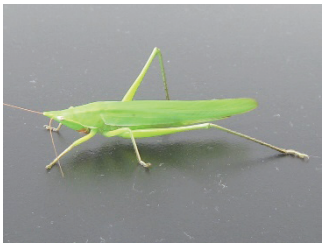
4−24C



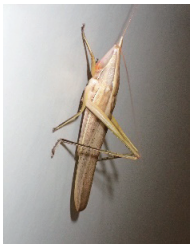
4−24D



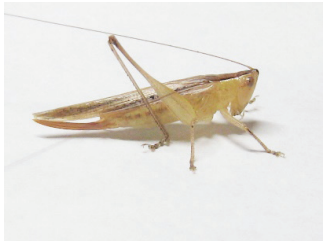
4−24E



4−24F

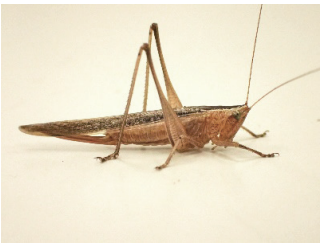


4−25A

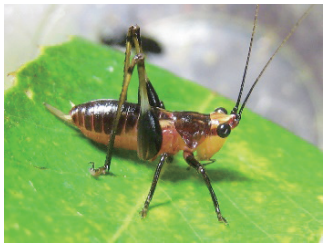


4−25B

4−25C



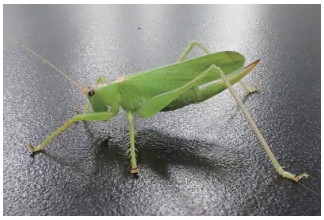
4−26A



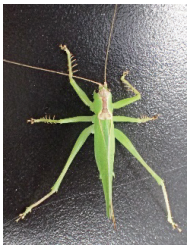
4−26B

4−26C

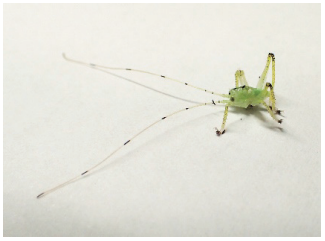
4−27A



4−27B

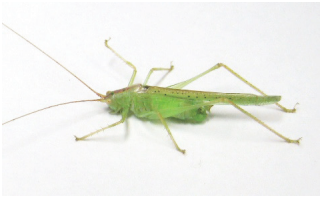


4−27C



4−28A

4−28B



4−29A

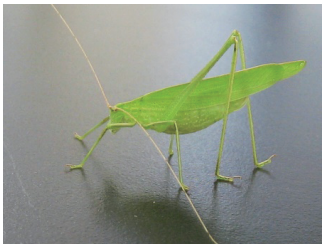
4−29B

4−30A

4−30B

4−31A

4−31B



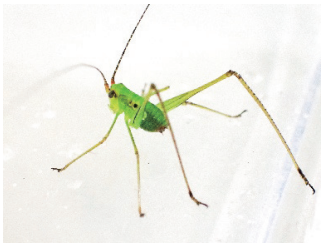
4−31C

4−32A

4−32B

4−33A

4−33B



4−33C

4−34

4−35

4−36A

4−36B

4−37A

4−37B

4−37C

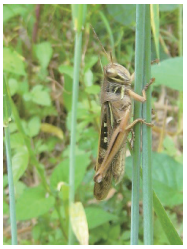
4−38A

4−38B

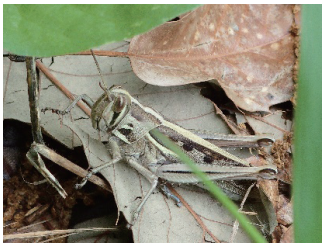
4−38C

4−38D

4−38E



4−38F

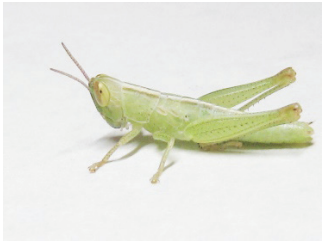


4−38G

4−39A

4−39B

4−39C



4−39D

4−39E

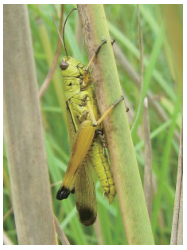
4−39F

4−40A

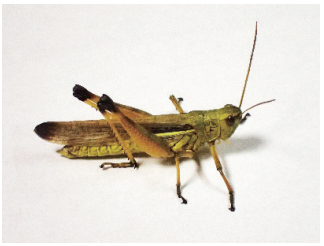
4−40B

4−40C

4−41A

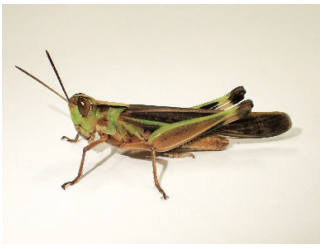


4−41B

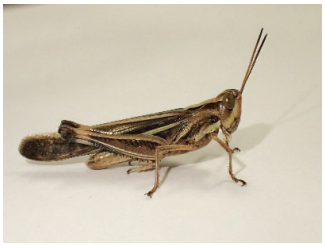


4−42A

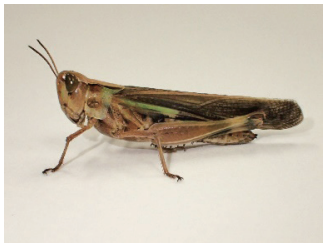
4−42B



4−42C



4−42D



4−43A

4−43B

4−43C

4−44A

4−44B

4−44C

4−44D

4−45A

4−45B

5−1

5−2

6−1A

6−1B

6−2

6−3A

6−3B

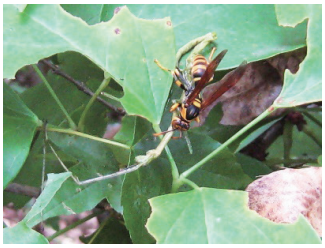
6−4

6−5

6−6

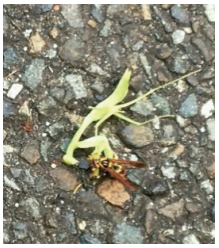
6−7

6−8A



6−8B

6−8C

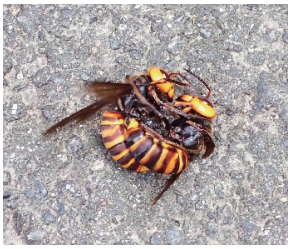


6−9

6−10A

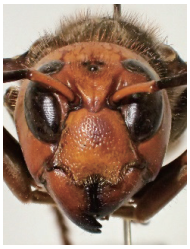
6−10B

6−10C



6−10D

6−10E



6−10F

6−10G

6−11A

6−11B

6−12A

6−12B

6−13A

6−13B

6−14A

6−14B

6−15A

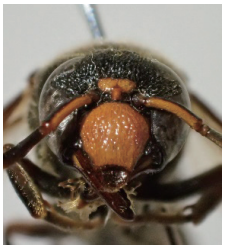
6−15B

6−15C

6−15D

6−16A

6−16B



6−17A

6−17B

6−18A

6−18B

6−18C

6−19A

6−19B

6−19C

6−20

6−21A

6−21B

6−21C

6−22A

6−22B

6−23A

6−23B

6−23C

6−24

6−25

6−26

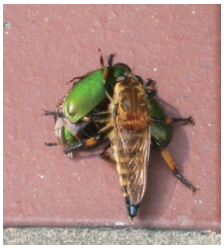
7−1

7−2

7−3

7−4

7−5A



7−5B

7−5C

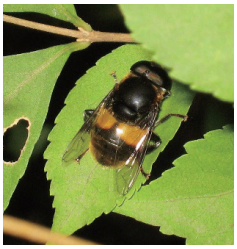
7−5D

7−6A

7−6B

7−7

7−8



7−9A

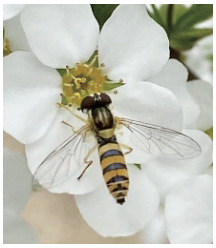
7−9B

7−10

7−11

7−12

7−13

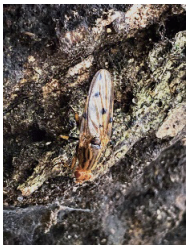


7−14

7−15

7−16

7−17



7−18

7−19

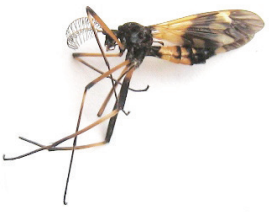
7−20A

7−20B

7−21

7−22A

7−22B



8−1

8−2A

8−2B

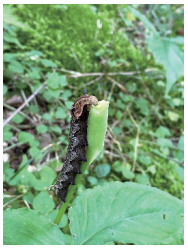
9−1

9−2

9−3

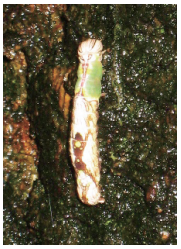
9−4

9−5



9−6

9−7



9−8A

9−8B

9−9

9−10

9−11

9−12A

9−12B

9−13

9−14A

9−14B

9−15A

9−15B

9−16

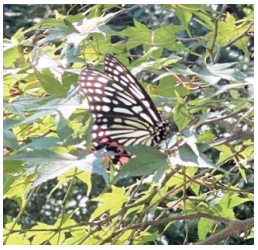
9−17

9−18

9−19

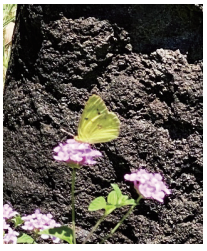
9−20A

9−20B



9−21

9−22



9−23A

9−23B

9−24

10−1A

10−1B

10−2

10−3A

10−3B

10−4

10−5

10−6

10−7

11−1

11−2

11−3A

11−3B

11−4

11−5